

# 園長室だより

令和2年度 第4号（7月17日発行） 大阪市立立葉幼稚園長 岡林 朗子

新型コロナウイルス感染症拡大防止に向けた臨時休業から始まり、あっという間の1学期でした。雨の多い夏になり、その合間の水遊びを存分に楽しんでいました。また、避難訓練や誕生会、七夕まつりなどこの時期にしか味わうことができない経験もできました。

年長は、年少との自然なかかわりの中、お兄さん、お姉さんの表情になり、頼もしくなりました。また、ばら組も、安定して遊ぶ姿に大きな成長を感じます。もも組は、少しずつ泣いて登園する子どもたちも少なくなり、自分の遊びたい遊びを見つけて安定して遊ぶ姿も見られるようになりました。子どもたちのかわいさにふれ、改めて幼稚園が再開できたことを嬉しく思った1学期でした。

2学期は、予定通り、運動会や作品展など開催したいと計画しています。しかし、状況の変化でやむを得ず変更になることもあります。また、多大なご理解ご協力をいただくことになるかもしれません。日々変わる状況に様々なご協力を今後も、どうぞよろしくお願いいたします。

夏休みも、これまで同様、安全にお過ごしください。



雨の日、遊戯室では年長が大型積木をして遊んでいました。大型積木は大切な造形遊びです。作っては組み換え、作っては形を変え、遊びによってどんどん変化していきます。友達と一緒に大きな積木を運ぶというチームが生まれ、友達と一緒に『こんなつくりたい』というイメージの共有も生まれ、5歳児ならではの遊びと言えると思います。3歳児では、大きな積木は重すぎます。4歳児では、友達とイメージの共有はなかなか難しい時期です。5歳児だからこそ、遊びが発展し楽しい遊びになります。

このような遊びを幼稚園では大切にしています。家ではできない遊びですし、友達がいないとできない遊びです。創造力の必要な遊びです。



雨の多い7月になりました。雨があがった日は、泥遊びや水遊び、シャボン玉遊びなど、様々な経験をしています。ゆり組の子どもたちの泥遊びはダイナミックです。年長はアイデア豊かでどんどん自分たちで遊びを展開していきます。子どもたちのルールもあって、本当に魅力的です。そこへ、もも組も入って遊びます。もちろん泥の感触を楽しむ程度なので、お邪魔している雰囲気ですが、それをうまく年長は巻き込みながら、遊びを調整していました。自分たちの思い通りにならない年少組に臨機応変に対応するのも年長の力です。

意欲的なもも組・ばら組の子どもたちです。ゆり組がいらない間に太鼓を拝借しています。

シャボン玉という楽しい遊びを見つけると早速試します。うちわの骨にシャボン玉液をつけて、持って走ったり、フーと吹いてシャボン玉を作ったり…。楽しい遊びを見つける天才です。

フィンガーペインティングは、3歳児のときに経験します。この遊びは、筆で画用紙に描く前、描く抵抗をなくす遊びの一つです。紙を汚すことを恐れず、失敗を恐れず、まず、描くことの抵抗をなくさせます。そして、腕をゆっくり大きく動かし色混ぜを楽しみます。感触や偶然できた指の跡も、存分に楽しんでいました。

遊戯室でゆり組とかけっこをしました。ゆり組に手本を見せてもらって、フープの中に入ってよいどん！

フープを少し前にずらして、一番になりたい意欲満々の子どもたちでした。